

■視点1-② 《中期目標》 基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、根拠をもとに自分の考えを書きまとめ、説明できる生徒の育成

〈成果指標〉 令和9年度の全国調査の標準化得点：国語110以上 数学110以上

《短期目標》 根拠をもとに自分の考えをつくり出せる生徒の育成

〈成果指標〉 令和6年度全国学力・学習状況調査において、県標準化得点〈県比〉国語100 数学100以上、
(四分位層C・D層の割合の合計〈県比〉国語+5.0 数学-15.0 以下)

■視点5

【家庭・関係機関との連携】
〈取組（指標）〉

⑤ 定期考査の学習計画表の提出（考査ごと） 生徒の振り返り、保護者のコメント記入

③⑤ 学校評価アンケートの実施（年一回）

〈成果（指標）〉

◆ 質問紙調査「家庭での学習計画の定着」「自分で計画を立てた勉強」の結果（全国比+5.0）

■視点2

【授業づくり】

〔基礎・基本の確実な習得と意欲的に課題解決を図る力の育成〕

〈取組（指標）〉

③ 授業ごとに授業内容について「めあて」と「まとめ」を明示する。

（毎時間）

④ ICTを活用し、学習意欲を喚起する授業づくり（全教科各単元1回以上）

〈成果（指標）〉

◆ 生徒による授業評価アンケート「授業に見通しを持って取り組んでいる」「授業が分かる」各3.5以上：4段階評定尺度）

〔根拠をもとに自分の考えを書きまとめ、説明できる生徒の育成〕

〈取組（指標）〉

② 自分の考えをつくらせ、発表させる場を設定した授業づくり（全教科、各単元に1回以上）

〈成果（指標）〉

◆ 生徒による授業評価（「自分の考えを他者に説明したり、文章に書いたりすることがすることができる」3.0以上：4段階評定尺度）

◆ 教職員アンケート（「自分の考えをノートに書いたり、根拠をもとに説明したりする場面を各単元に設定したか」3.0以上：4段階評定尺度）

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組（指標）〉

①② 小中合同の研修会を実施する。（年3回）

② 定期考査に「学力向上虎の巻」等を参考に思考力を問う問題を出題する。（各教科1問以上）

④ ICTを活用した公開授業の実施（各教科1回）

〈成果（指標）〉

◆ 教職員アンケート（「生徒は習得した知識や技能を使って、課題解決している」3.0以上：4段階評定尺度）

◆ 生徒による授業評価（「ICTを活用して、授業を分かりやすく進めている」3.5以上：4段階評定尺度）

■視点3

【学力基盤づくり】

〈取組（指標）〉 ①⑤ 振り返りノートと自主学習ノートの取組を通して、授業内容のポイントを押さえさせる。（毎朝提出）

③⑤ 定期考査に向けての試験勉強を計画的に取り組めるようにする。（考査10日前に学習計画表を作成）

② 自分の考えをまとめ、人前で話すなどの表現力を育成する。（毎日のHRでスピーチを行う）

〈成果（指標）〉 ◆ 振り返りノートと自主学習ノートの提出率90%以上 ◆ HRのスピーチ実施率年間80%以上

◆ 定期考査前10日間の家庭学習の時間、30分未満の日の割合5%以下

■視点1-①

県学力調査、全国学力調査及び「授業評価アンケート」、「授業チェックリスト」等から見た「課題」

授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」

四分位層の県との差、標準化得点	国語					数学				
	A層	B層	C層	D層	標準化得点	A層	B層	C層	D層	標準化得点
R5県調査	-32.5	+14.5	+9.1	+8.8	85.1	-27.1	+25.6	-9.8	+11.3	84.7
R6全国調査										

課題

・県学力調査（R5中2）において、国語・数学双方において、A層が-30、D層が+10%と低学力の傾向にある。
・国語においては、文章の読解や条件に合わせて文章を書くこと、漢字を書くことの能力が低い。
・数学においては、小数や分数の四則計算や平行四辺形の面積や対角線で分けられた三角形の面積の求め方の能力が低い。

質問紙調査等

・質問紙調査「将来の夢や目標を持っていますか」（当てはまる77.8%〔内「当てはまる」66.70%〕）
・質問紙調査「友達関係に満足していますか」（当てはまる88.9%〔内「どちらかといえば当てはまる」66.7%〕）

- ①基礎学力定着・向上を図るため、鍛えて知識や技能を身に付けさせる場面の不足
- ②根拠をもとに自分の考えを作ったり、説明したりする場面の不足
- ③学習の見通しを立て、意欲的に課題解決していく授業づくりが不十分
- ④課題解決力や応用力向上のためのICT活用の充実
- ⑤家庭学習の定着が不十分